

仕様基準に基づく仕様表作成ツール【木造戸建て住宅用】

入力の手引き ・ 入力・出力例

2025年2月 Ver.1.1

1. 入力の手引き	1
[入力前・入力後の確認]	2
A 基本情報シート	3
B 仕様入力シート  1 断熱材の熱抵抗R	4
B 仕様入力シート  2 窓の熱貫流率Uと日射遮蔽対策	5
B 仕様入力シート  2 ドアの熱貫流率U	6
B 仕様入力シート  3 設備機器の仕様	6
2. 入力例・出力例(仕様表):6地域の場合	8

1. 入力の手引き

[入力前・入力後の確認]

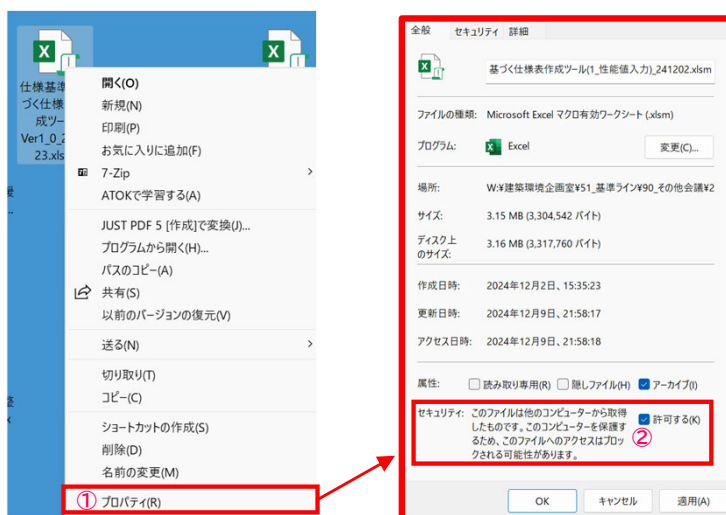
1) 入力前の確認

- ① 本ツールをダウンロード後には、マクロを有効にしてください。

本ツールをダウンロード後にマクロを有効にする方法

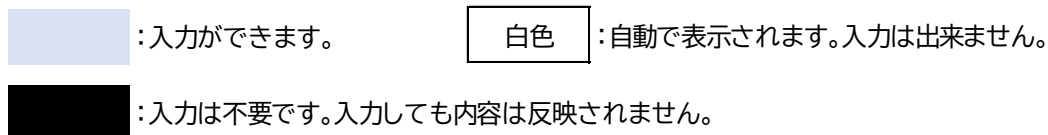
① 当該Excelを右クリックでプロパティを選択

② 「全般」タブより、セキュリティにて「許可する」を選択し、OKボタンを押す。



② 入力の方法

- i: 水色セルに入力します。「プルダウンから選択」する方法と「直接入力」する方法があります。



- ii: チェックボックスをクリックして選択することで入力します。

☐ : クリックして該当箇所にチェック ✓ してください。

2) 入力後の確認

- ① 地域の区分の横に「入力するシートが違います!!」の表示がある場合、シート「A 基本情報」で入力した「地域の区分」と同じシートに入力しているか確認してください。



- ② 全ての入力が完了したら、省エネ基準適否欄に「適合」が表示されていることを確認してください。



印刷 ボタンをクリックすると、「仕様表(仕様基準)」シートの印刷プレビュー画面が表示されます
印刷は「Ctrl+P」でも印刷が出来ます

A 基本情報シート

薄青のセルは全て入力してください。

仕様表(提出用の用紙)に反映するとともに、地域の区分を設定して「B 仕様入力シート」を自動選択します。

申請する建築士名: 省エネ 太郎 記入日(西暦): 2025 年 4 月 2 日

会社名: ○○○○工務店

事務所登録: ○○建築士事務所 △△県知事登録 ▲▲▲▲▲号

建築士番号: ○○建築士 ▼▼▼▼▼号

物件名: ○○○○邸新築工事

都道府県: 神奈川県

建設地: 市町村: 横浜市

地域の区分 6 地域

申請する建築士の所属する「会社名」、その会社の「事務所登録番号」、申請する建築士の「建築士登録番号」を記載(入力)してください。

プルダウンの中から選択して入力してください。

建設地をプルダウンで入力することで該当する「地域の区分」が表示されます。
注)直接入力できません。

仕様入力シートに移動

建設地の地域に応じたシートに移動します
下のシート名(シートタブ)をクリックしてもシートの移動は可能です

このボタンを押すことで、地域の区分に応じた「仕様入力シート」に自動で移動します。

基本情報

申請する建築士名: 省エネ 太郎 記入日(西暦): 2025 年 4 月 2 日

会社名: ○○○○工務店

事務所登録: ○○建築士事務所 △△県知事登録 ▲▲▲▲▲号

建築士番号: ○○建築士登録番号 ▼▼▼▼▼号

物件名: ○○○○邸新築工事

都道府県: 東京都

建設地: 市町村: 横浜市

地域の区分 6 地域

エラー!! 建設地の「都道府県」と「市町村」を正しく選択してください

仕様入力シートに移動

建設地の地域に応じたシートに移動します
下のシート名(シートタブ)をクリックしてもシートの移動は可能です

Excelファイルの下部のシート名のタブを選択することも可能ですが、設定した建設地の地域の区分と異ならないように注意してください。

シートタブ: A 最初に入力してください 基本情報 B 仕様入力シート 1 2 3 4 地域 B 仕様入力シート 5 6 7 地域 B 仕様入力シート 8 地域

B 仕様入力シート 1 断熱材の熱抵抗R

- ①から⑨まで左から順に入力してください。
- ①又は②の選択結果により、③から⑨の入力箇所が異なります。
- 薄青色のセルは入力が必要、白と濃いグレーは入力不要です。
- 重要：入力する表の上部の◎印の箇条書きは必ずお読みください。
(下表では◎箇条書きを省略しています。)

⑧で小数点2位以下を入力した場合、設計値は小数点2位以下を切り捨てて、小数点1位表示となり、この数値で適否確認をします。

①から⑨まで左から順に入力してください。

部位	断熱部位の 該当チェック	断熱材R 入力方法	断熱工法	断熱材の種類	自動で表示		⑦ 計算結果出力 熱抵抗 R[m ² ・K/W]	⑧ 直接入力 熱抵抗 R[m ² ・K/W]	⑨ 備考 ② 熱抵抗R入力方法 「直接入力」の場合 断熱材の種類、熱伝導率λ、厚さ、参考資料等を記入	自動で表示		適否確認
					⑤ 熱伝導率 λ[W/(m・K)]	⑥ 厚さ [mm]				設計値 R[m ² ・K/W]	基準値 R[m ² ・K/W]	
屋根	該当部位なし											該当部位なし
天井	断熱部位	直接入力	軸組充填					4.789474	断熱材の種類、熱伝導率λ、厚さ、参考資料等を記入 ●●●●断熱材0000、熱伝導率λ0.000、200mm、参考資料：○○社カタログ	4.7	≧ 4.0	適合
壁		断熱材の種類 から入力	軸組充填	グラスウール断熱材 高性能品 HG16-38	0.038	90	2.3		薄青色ですが、②が「直接入力」ではないため、 記入不要です	2.3	≧ 2.2	適合
床 外気に接する部分※1	断熱部位	直接入力	軸組充填					3.333333	断熱材の種類、熱伝導率λ、厚さ、参考資料等を記入 ●●●●断熱材0000、熱伝導率λ0.000、150mm、参考資料：○○社カタログ	3.3	≧ 3.3	適合
床 その他の部分	断熱部位	断熱材の種類 から入力	軸組充填	採出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	0.028	60	2.1	2.1	薄青色ですが、②が「直接入力」ではないため、 記入不要です	2.1	≧ 2.2	不適
土間床等の外周部分の 基礎壁 (外気に接する部分)※2	断熱部位	断熱材の種類 から入力	内断熱、外断熱または両断熱	採出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	0.028	50	1.7		薄青色ですが、②が「直接入力」ではないため、 記入不要です	1.7	≧ 1.7	適合
土間床等の外周部分の 基礎壁 (その他の部分)※2	断熱部位	断熱材の種類 から入力	内断熱、外断熱または両断熱	採出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	0.028	15	0.5		薄青色ですが、②が「直接入力」ではないため、 記入不要です	0.5	≧ 0.5	適合

※1 床の外気に接する部分のうち、住宅の床面積の合計に0.05を乗じた面積以下の部分については、床の「その他の部分」とみなすことができます。

※2 玄関、勝手口等の土間床部分については断熱を省略することができます。

設計に係わる事項を記載しています。ご確認ください。

濃いグレーのセルに数字が残っていても、設計値セル、及び仕様表には反映されません。窓、ドアも同様です。

このセルで「不適」の表示となった場合は、断熱材の厚さ、種類等の見直しを行ってください。

C 仕様表(仕様基準)への出力表示例

「C 仕様表(仕様基準)」には、適否確認の結果は表示されません。
「A 基本情報」の入力内容、「B 仕様入力シート」で入力した断熱材の仕様、及び設計値と基準値の表示内容がそのまま表示されます。

外皮基準:断熱仕様

部位	断熱工法	断熱材		熱抵抗[m ² ・K/W]		備考
		種類	厚さ[mm]	設計値	基準値	
屋根	—	—	—	—	—	該当部位なし
天井	軸組充填	—	—	4.7	4.0	断熱材の種類、熱伝導率λ、厚さ、参考資料等を記入 ●●●●断熱材0000、熱伝導率λ0.000、200mm、参考資料：○○社カタログ
壁	軸組充填	グラスウール断熱材 高性能品HG16-38	90	2.3	2.2	—
床	外気に接する部分	軸組充填	—	3.3	3.3	断熱材の種類、熱伝導率λ、厚さ、参考資料等を記入 ●●●●断熱材0000、熱伝導率λ0.000、150mm、参考資料：○○社カタログ
	その他の部分	軸組充填	採出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	60	2.1	2.2
土間床等の外周部分の基礎壁	外気に接する部分	採出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	50	1.7	1.7	—
	その他の部分	採出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	15	0.5	0.5	—

設計値と基準値が下記であることを確認してください。
設計値 ≧ 基準値

この例は、設計値が基準値よりも小さい値であるため仕様基準に適合しません。

B 仕様入力シート 2 窓の熱貫流率Uと日射遮蔽対策

- ①から備考欄まで左から順に入力してください。
- ①又は②の選択結果により、③から右側の入力箇所が異なります。
- 薄青色のセルは入力が必要、白と濃いグレーは入力不要です。
- 重要-1:入力する表の上部の◎印の箇条書きは必ずお読みください。
(下表では◎箇条書きを省略しています。)
- 重要-2:入力する表の下部の※箇条書きは設計に係わる事項を記載しています。

1・2・3・4地域のシート

- 熱貫流率のみ基準があります。日射遮蔽対策は基準がありません。

5・6・7地域のシート

- 熱貫流率と日射遮蔽対策の2つの基準があります。
- 有効な庇、軒等、付属部材の有無、及び「熱貫流率U」と「日射熱取得率 ηd 」で各々最大の窓の3種類の入力行があります。
 - 全ての窓に有効な庇、軒等、付属部材がある場合は、当該行の入力だけになります。
 - 有効な庇、軒等、付属部材がない窓で、熱貫流率Uが最大の窓と日射熱取得率 ηd が最大の窓が同じ場合は、「熱貫流率Uが最大の窓」の行に入力し、「日射熱取得率 ηd が最大」の行の①は「あり」、⑨は「Uが最大の窓と同じ仕様」と記入してください。

部位	日射遮蔽対策	① 該当窓の有無	② 窓の入力方法	③ 建具の仕様	④ ガラスの仕様	⑤ 中空層の仕様	⑥ Low-Eガラス 日射取得率/遮断	⑦ 直接入力 熱貫流率 U[W/(㎡・K)]	⑧ 直接入力 開口部の日射 熱取得率 ηd [-]	⑨ 備考 ②窓の入力方法「直接入力」の場合 製品カタログやホームページ、自己適合宣言書に照準を添付すること 注:自己適合宣言書と同時掲載を添付すること	熱貫流率		日射熱取得率		適合確認
											設計値 U[W/(㎡・K)]	基準値 U[W/(㎡・K)]	設計値 ηd [-]	基準値 ηd [-]	
窓 ※3※4	有効なひさし、軒等 ^{※5} がある所に設置する窓	あり	建具とガラス の組み合わせ から入力	その他・金属製建具・金属製熱 遮断構造建具等	二層複層ガラス 一般	ガラスの封されていない 8 mm未満					4.7	≤ 4.7			適合
	有効なひさし、軒等 ^{※5} が最大の窓	あり	建具とガラス の組み合わせ から入力	その他・金属製建具・金属製熱 遮断構造建具等	二層複層ガラス Low E	ガラスの封されていない 7 mm以上 14 mm未満	日射遮断型				3.5	≤ 4.7	0.32	≤ 0.59	適合
	付属部材 ^{※6} が ない所に設置 する窓	あり	開口部の日射 熱取得率 ηd が 最大の窓							Uが最大の窓と同じ仕様					

※3 「熱貫流率」においては、開口部の面積(当該開口部が二以上の場合はその合計の面積)が住戸の床面積に0.02を乗じた数値以下となるものを除くことができます。

※4 「日射遮蔽対策(日射熱取得率)」においては、天窓以外の開口部で、開口部の面積(当該開口部が二以上の場合はその合計の面積)が住戸の床面積に0.04を乗じた数値以下となるものを除くことができます。

※5 「有効なひさし、軒等」とは、外壁からの出法が、その下端から意下端までの高さの0.3倍以上のものをいいます。

※6 「有効な付属部材」とは、障子、外付けブラインド(意の高近外側に設置し、金属製スラット等の可変によって日射調整機能のあるブラインド)、その他これらと同等以上の日射遮蔽性能があり、開口部に建築的に取り付けられるものをいいます。レースカーテン、内付けブラインド等の着脱が容易なものは対象外です。

有効な庇等の有無各々で
Uが最大窓の値とする。

C 仕様表(仕様基準)への出力表示例

外皮基準:窓

部位・地域・窓の設置場所	建具の仕様	ガラスの仕様	中空層の仕様	日射取得 /日射遮断	熱貫流率[W/(㎡・K)]		日射熱取得率[-]		備考
					設計値	基準値	設計値	基準値	
窓 1~4 地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	有効なひさし、軒等 ^{※5} がある所に設置する窓	その他・金属製建具・金属製熱遮断 構造建具等	二層複層ガラス 一般	ガラスの封されていない 8 mm未満	4.7	4.7	—	—	—
	有効なひさし、軒等 ^{※5} が最大の窓	その他・金属製建具・金属製熱遮断 構造建具等	二層複層ガラス Low E	ガラスの封されていない 7 mm以上 14 mm未満	3.5	4.7	0.32	0.59	—
窓 5~8 地域	有効なひさし、軒等 ^{※5} がない所に 設置する窓	0	0	0	0	4.7	0.59	0.59	Uが最大の窓と同じ仕様

有効な庇、軒等、付属部材がない窓で、「熱貫流率Uが最大の窓」と「日射熱取得率 ηd が最大の窓」が異なる場合の入力例

部位	日射遮蔽対策	① 該当窓の有無	② 窓の入力方法	③ 建具の仕様	④ ガラスの仕様	⑤ 中空層の仕様	⑥ Low-Eガラス 日射取得率/遮断	⑦ 直接入力 熱貫流率 U[W/(㎡・K)]	⑧ 直接入力 開口部の日射 熱取得率 ηd [-]	⑨ 備考 ②窓の入力方法「直接入力」の場合 製品カタログやホームページ、自己適合宣言書に照準を添付すること 注:自己適合宣言書と同時掲載を添付すること	熱貫流率		日射熱取得率		適合確認
											設計値 U[W/(㎡・K)]	基準値 U[W/(㎡・K)]	設計値 ηd [-]	基準値 ηd [-]	
窓 ※3※4	有効なひさし、軒等 ^{※5} がある所に設置する窓	あり	建具とガラス の組み合わせ から入力	その他・金属製建具・金属製熱 遮断構造建具等	二層複層ガラス 一般	ガラスの封されていない 8 mm未満					4.7	≤ 4.7			適合
	有効なひさし、軒等 ^{※5} が最大の窓	あり	建具とガラス の組み合わせ から入力	その他・金属製建具・金属製熱 遮断構造建具等	二層複層ガラス Low E	ガラスの封されていない 7 mm以上 14 mm未満	日射遮断型			Uが最大	3.5	≤ 4.7	0.32	≤ 0.59	適合
	付属部材 ^{※6} が ない所に設置 する窓	あり	開口部の日射 熱取得率 ηd が 最大の窓	樹脂製建具又は木製建具	二層複層ガラス 一般	ガラスの封されていない 13 mm 以上	—				2.9	≤ 4.7	0.57	≤ 0.59	適合

※3 「熱貫流率」においては、開口部の面積(当該開口部が二以上の場合はその合計の面積)が住戸の床面積に0.02を乗じた数値以下となるものを除くことができます。

※4 「日射遮蔽対策(日射熱取得率)」においては、天窓以外の開口部で、開口部の面積(当該開口部が二以上の場合はその合計の面積)が住戸の床面積に0.04を乗じた数値以下となるものを除くことができます。

※5 「有効なひさし、軒等」とは、外壁からの出法が、その下端から意下端までの高さの0.3倍以上のものをいいます。

※6 「有効な付属部材」とは、障子、外付けブラインド(意の高近外側に設置し、金属製スラット等の可変によって日射調整機能のあるブラインド)、その他これらと同等以上の日射遮蔽性能があり、開口部に建築的に取り付けられるものをいいます。レースカーテン、内付けブラインド等の着脱が容易なものは対象外です。

ηd が最大

8地域のシート

- 日射遮蔽対策のみ基準があります。開口部の熱貫流率基準はありません。

B 仕様入力シート 2 ドアの熱貫流率U

- 8地域は開口部の熱貫流率基準値がないためドアの入力はありません。
- ①から⑥まで左から順に入力してください。
- ①の選択結果により、②から右側の入力箇所が異なります。
- 薄青色のセルは入力が必要、白と濃いグレーは入力不要です。
- 重要:入力する表の上部の◎箇条書きは必ずお読みください。

B 仕様入力シート 3 設備の仕様

- チェックボックスに✓(□の箇所でクリック)することで仕様を選択します。
- 備考欄には設備機器のメーカー名、型番等を記載します。カタログ、技術資料を添付する場合も、その旨を記載してください。
- 重要:入力する表の上部の⚠◎箇条書きは必ずお読みください。

3 設備機器の仕様

⚠ 下記に記載のない設備機器(床暖房など)を設置する場合、このツールは使用できません。

- ◎ □を選択してチェック✓を入れてください。
- ◎ 備考には、設置した機器名や設置場所(照明のみ)を記載してください。
- ◎ 暖房設備は、暖房する範囲を選択したのち、各々についていずれかを選択✓してください。
- ◎ 暖房設備、給湯設備、照明設備を設置しない場合は、「設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない)」にチェックしてください。
- ◎ □に当てはまる項目がない場合、備考に記載してください。

すべての
チェック✓を
クリア

すべての✓を一斉に削除できます。

暖房設備 右記のいずれかを選択	☐ 住戸全体を暖房 ダクト式セントラル空調機で、ヒートポンプを熱源とするもの ☒ 居室のみを暖房 【主たる居室】 ☐ パネルラジエーターで以下のいずれかを熱源とし、かつ配管に断熱被覆があるもの ①～③のいずれかを選択 ☐ ① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率87.8%以上のもの ☐ ② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率82.5%以上のもの ☐ ③ 電気ヒートポンプ温水暖房機(フロン系冷媒に限る) ☒ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が(い) 又は(ろ) のもの ☐ 暖房設備機器または放熱器を設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) 【その他の居室】 ☐ パネルラジエーターで以下のいずれかを熱源とし、かつ配管に断熱被覆があるもの ①～③のいずれかを選択 ☐ ① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率87.8%以上のもの ☐ ② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率82.5%以上のもの ☐ ③ 電気ヒートポンプ温水暖房機(フロン系冷媒に限る) ☒ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が(い) 又は(ろ) のもの ☐ 暖房設備機器または放熱器を設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) ☐ 設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) 備考【主たる居室】 ●●●社製・△△△エアコン、型番000000 【その他の居室】 入居後設置
冷房設備 右記のいずれかを選択	☐ 住戸全体を冷房 ダクト式セントラル空調機で、ヒートポンプを熱源とするもの ☒ 居室のみを冷房 【主たる居室】 ☒ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が(い) 又は(ろ) のもの ☐ 冷房設備機器を設置しない 【その他の居室】 ☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が(い) 又は(ろ) のもの ☒ 冷房設備機器を設置しない ☐ 設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) 備考【主たる居室】 ●●●社製・△△△エアコン、型番000000 【その他の居室】 入居後設置
換気設備 右記のいずれかを選択	☐ 比消費電力(熱交換換気設備を採用する場合にあっては比消費電力を有効換気量率で除した値)が0.3[W/(m³/h)]以下の換気設備 ☒ 壁付け式第二種 又は 第三種換気設備のもの ☐ ダクト式第一種換気設備(熱交換なし)で、ダクト内径が75mm以上で、かつDC モーター(直流)のもの ☐ ダクト式第二種 又は 第三種換気設備で、ダクト内径が75mm以上のもの 備考 換気扇:○○○○工業社製、▲▲▲▲ファン、型番999999 換気孔:□□□□製、型番7777
給湯設備 右記のいずれかを選択	☐ 石油給湯機【エコフィール含む】のモード熱効率 77.8% 以上のもの ☒ ガス給湯機【エコジョーズ含む】のモード熱効率 78.2% 以上のもの ☐ 電気ヒートポンプ給湯機【エコキュート】 ☐ 設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) 備考 ◎◎ガス工業社製、▽▽▽▽給湯機、型番333333
照明設備 (非居室の仕様) 右記のいずれかを選択	☒ 非居室の全ての照明に、LED 又は 蛍光灯 を設置している ☐ 設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) 備考 非居室(玄関、廊下、便所、洗面脱衣室、浴室、納戸)は、○○ライト社製のLEDシーリングライトを設置、参考資料添付

✓した項目、機器等は、薄緑に自動で変わります。

備考欄には、必ず機器名等を記載してください。

参考：✓チェックの機能の一部を紹介します。

① 自動設定の例

給湯設備の「石油潜熱回収型温水機【エコフィール】～」等をクリックすると、上位の「居室のみを暖房」と「パネルラジエータで～」も自動で✓が設定されます。

暖房設備 右記のいずれかを選択	☐ 住戸全体を暖房	ダクト式セントラル空調機で、ヒートポンプを熱源とするもの
	☒ 居室のみを暖房	
	【主たる居室】	☒ パネルラジエーターで以下のいずれかを熱源とし、かつ配管に断熱被覆があるもの
		①～③のいずれかを選択
		☒ ① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率87.8%以上のもの
		☐ ② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率82.5%以上のもの
		☐ ③ 電気ヒートポンプ温水暖房機（フロン系冷媒に限る）
		☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）又は（ろ）のもの
		☐ 暖房設備機器または放熱器を設置しない（入居者設置など完了検査時点で設置が行われない）
		【その他の居室】
	①～③のいずれかを選択	
	☐ ① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率87.8%以上のもの	
	☐ ② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率82.5%以上のもの	
	☐ ③ 電気ヒートポンプ温水暖房機（フロン系冷媒に限る）	
	☒ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）又は（ろ）のもの	
	☐ 暖房設備機器または放熱器を設置しない（入居者設置など完了検査時点で設置が行われない）	
	☐ 設置しない（入居者設置など完了検査時点で設置が行われない）	
	備考【主たる居室】 ●●●社製・エコフィール、石油給湯機△△△△、型番000000 【その他の居室】 ●●●社製・△△△エアコン、型番000000	

② 自動クリア(解除)の例

「設置しない(入居者設置など)」を✓すると、「居室のみを暖房」の下位で選択されていた全ての✓がクリア(解除)されます。

「住戸全体を暖房」を✓しても同様にクリア(解除)されます。

暖房設備 右記のいずれかを選択	☐ 住戸全体を暖房	ダクト式セントラル空調機で、ヒートポンプを熱源とするもの
	☐ 居室のみを暖房	
	【主たる居室】	☐ パネルラジエーターで以下のいずれかを熱源とし、かつ配管に断熱被覆があるもの
		①～③のいずれかを選択
		☐ ① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率87.8%以上のもの
		☐ ② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率82.5%以上のもの
		☐ ③ 電気ヒートポンプ温水暖房機（フロン系冷媒に限る）
		☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）又は（ろ）のもの
		☐ 暖房設備機器または放熱器を設置しない（入居者設置など完了検査時点で設置が行われない）
		【その他の居室】
	①～③のいずれかを選択	
	☐ ① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率87.8%以上のもの	
	☐ ② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率82.5%以上のもの	
	☐ ③ 電気ヒートポンプ温水暖房機（フロン系冷媒に限る）	
	☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）又は（ろ）のもの	
	☐ 暖房設備機器または放熱器を設置しない（入居者設置など完了検査時点で設置が行われない）	
	☒ 設置しない（入居者設置など完了検査時点で設置が行われない）	
	備考【主たる居室】 入居後設置 【その他の居室】 入居後設置	

仕様基準に基づく仕様表作成ツール【木造戸建て住宅用】 6地域の入力例を下記に記します

A 基本情報

申請する建築士名:

省エネ 太郎

記入日(西暦):

2025 年 4 月 2 日

会社名:

●●●●工務店

事務所登録:

〇〇建築士事務所 △△県知事登録 ▲▲▲▲▲号

建築士番号:

〇〇建築士 ▼▼▼▼▼号

物件名:

●●●●邸新築工事

都道府県:

建設地: 東京都

市町村:

東京23区

地域区分

6

地域

B 仕様入力シート

5・6・7 地域 仕様入力シート

地域の区分 6 地域

省エネ基準適合
適合

1 断熱材の熱抵抗R

部位	① 断熱部位の 該当チェック	② 熱抵抗R 入力方法	③ 断熱工法	④ 断熱材の種類	自動で表示		自動で表示		⑧ 直接入力 熱抵抗 R[m・K / W]	⑨ 備考 ② 熱抵抗R入力方法 「直接入力」の場合 断熱材の種類、熱伝導率λ、厚さ、参考資料等を記入	自動で表示 自動で表示		適否確認
					⑤ 熱伝導率 λ[W/(m・K)]	⑥ 厚さ [mm]	⑦ 計算結果出力 熱抵抗 R[m・K / W]	熱抵抗					
								設計値 R[m・K / W]			基準値 R[m・K / W]		
屋根	該当部位なし												該当部位なし
天井	断熱部位	直接入力	軸組充填					4.0789474	●●●●断熱材(λ0.038)155mm、参考資料：●●カタログ	4.0	≧ 4.0		適合
壁		断熱材の種類 から入力	軸組充填	グラスウール断熱材 高性能品 HG16-38	0.038	90	2.3				2.3	≧ 2.2	適合
床 外気に接する部分※1	該当部位なし												該当部位なし
床 その他の部分※2	断熱部位	断熱材の種類 から入力	軸組充填	押出法ポリスチレンフォーム断 熱材 3種bA	0.028	65	2.3				2.3	≧ 2.2	適合
土間床等の外周部分の 基礎壁 (外気に接する部分)※3	断熱部位	断熱材の種類 から入力	内断熱、外断 熱または両側 断熱	押出法ポリスチレンフォーム断 熱材 3種bA	0.028	50	1.7				1.7	≧ 1.7	適合
土間床等の外周部分の 基礎壁 (その他の部分)※3	断熱部位	断熱材の種類 から入力	内断熱、外断 熱または両側 断熱	押出法ポリスチレンフォーム断 熱材 3種bA	0.028	50	1.7				1.7	≧ 0.5	適合

※1 床の「外気に接する部分」のうち、住宅の床面積の合計に0.05を乗じた面積以下の部分については、床の「その他の部分」とみなすことができます。

※2 断熱されているバスユニットの床は、適否確認を除外できます。

※3 玄関、勝手口等の土間床部分については断熱を省略することができます。

2 窓の熱貫流率Uと日射遮蔽対策

自動で表示 自動で表示 自動で表示 自動で表示 自動で表示

部位	日射遮蔽対策	① 該当窓の有無	② 窓の入力方法	③ 建具の仕様	④ ガラスの仕様	⑤ 中空層の仕様	⑥ Low-Eガラス 日射取得/遮蔽	⑦ 直接入力 熱貫流率 U[W/(㎡・K)]	⑧ 直接入力 開口部の日射 熱取得率 ηd[-]	⑨ 備考 ② 窓の入力方法 「直接入力」の場合 製品カタログやホームページ、自己適合宣言附属書のNoを記入 注:『自己適合宣言書と同附属書』を添付すること	熱貫流率		日射熱取得率		適否確認
											設計値 U[W/(㎡・K)]	基準値 U[W/(㎡・K)]	設計値 η [-]	基準値 η [-]	
窓 ※4※5	有効なひさし、軒等※6、 付属部材※7が ある所に設置する窓	あり	直接入力					1.88		製品名●●●、JIS Q ●●●●●●●●、に基づく自己適合宣言書 (附属書)	1.9	≦ 4.7			適合
	有効なひさし、軒等※6、 付属部材※7が ない所に設置 する窓	熱貫流率Uが 最大の窓	あり	建具とガラス の組み合わせ から入力	樹脂 又は木と金属の複合材 料製建具	二層複層ガラス Low E	ガラスの封入されていない9 mm 以上	日射遮蔽型			2.9	≦ 4.7	0.32	≦ 0.59	適合
		開口部の日射 熱取得率ηdが 最大の窓	あり	建具とガラス の組み合わせ から入力	樹脂 又は木と金属の複合材 料製建具	二層複層ガラス Low E	ガラスの封入されていない9 mm 以上	日射取得型			2.9	≦ 4.7	0.51	≦ 0.59	適合

※4 「熱貫流率」においては、開口部の面積(当該開口部が二以上の場合はその合計の面積)が住戸の床面積に0.02を乗じた数値以下となるものを除くことができます。
※5 「日射遮蔽対策(日射熱取得率)」においては、天窓以外の開口部で、開口部の面積(当該開口部が二以上の場合はその合計の面積)が住戸の床面積に0.04を乗じた数値以下となるものを除くことができます。
※6 「有効なひさし、軒等」とは、外壁からの出寸法が、その下端から窓下端までの高さの0.3倍以上のものをいいます。
※7 「有効な付属部材」とは、障子、外付けブラインド(窓の直近外側に設置し、金属製スラット等の可変によって日射調整機能のあるブラインド)、その他これらと同等以上の日射遮蔽性能があり、開口部に建築的に取り付けられるものをいいます。レースカーテン、内付けブラインド等の着脱が容易なものは対象外です。

2 ドアの熱貫流率U

自動で表示 自動で表示 自動で表示

部位	① ドアの入力方法	② 枠の仕様	③ 戸の仕様	④ ガラスの仕様・中空層の仕様	⑤ 直接入力 熱貫流率 U[W/(㎡・K)]	⑥ 備考 ② ドアの入力方法 「直接入力」の場合 製品カタログやホームページ、自己適合宣言附属書のNoを記入 注:『自己適合宣言書と同附属書』を添付すること	熱貫流率		適否確認
							設計値 U[W/(㎡・K)]	基準値 U[W/(㎡・K)]	
ドア	直接入力				2.9	製品名●●●、JIS Q ●●●●●●●●、に基づく自己適合宣言書 (附属書)	2.9	≦ 4.7	適合

暖房設備 右記のいずれかを選択	☐ 住戸全体を暖房 ダクト式セントラル空調機で、ヒートポンプを熱源とするもの ☒ 居室のみを暖房 【主たる居室】 ☐ パネルラジエーターで以下のいずれかを熱源とし、かつ配管に断熱被覆があるもの ①～③のいずれかを選択 ☐ ① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率87.8% 以上のもの ☐ ② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率82.5% 以上のもの ☐ ③ 電気ヒートポンプ温水暖房機（フロン系冷媒に限る） ☒ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が(い) 又は(ろ) のもの ☐ 暖房設備機器または放熱器を設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) 【その他の居室】 ☐ パネルラジエーターで以下のいずれかを熱源とし、かつ配管に断熱被覆があるもの ①～③のいずれかを選択 ☐ ① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率87.8% 以上のもの ☐ ② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率82.5% 以上のもの ☐ ③ 電気ヒートポンプ温水暖房機（フロン系冷媒に限る） ☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が(い) 又は(ろ) のもの ☒ 暖房設備機器または放熱器を設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) ☐ 設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) 備考 【主たる居室】(メーカー名)●●●社製、(型番)000000 【その他の居室】入居後設置
冷房設備 右記のいずれかを選択	☐ 住戸全体を冷房 ダクト式セントラル空調機で、ヒートポンプを熱源とするもの ☒ 居室のみを冷房 【主たる居室】 ☒ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が(い) 又は(ろ) のもの ☐ 冷房設備機器を設置しない 【その他の居室】 ☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が(い) 又は(ろ) のもの ☒ 冷房設備機器を設置しない ☐ 設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) 備考 【主たる居室】(メーカー名)●●●社製、(型番)000000 【その他の居室】入居後設置
換気設備 右記のいずれかを選択	☐ 比消費電力(熱交換換気設備を採用する場合にあっては比消費電力を有効換気量率で除した値)が0.3[W/(m³/h)]以下の換気設備 ☐ ダクト式第一種換気設備(熱交換なし)で、ダクト内径が75mm以上で、かつDC モーター(直流)のもの ☐ ダクト式第二種 又は 第三種換気設備で、ダクト内径が75mm以上のもの ☒ 壁付け式第二種 又は 第三種換気設備のもの 備考 (メーカー名)●●●社製、(型番)000000
給湯設備 右記のいずれかを選択	☐ 石油給湯機【エコフィール含む】のモード熱効率 77.8% 以上のもの ☒ ガス給湯機【エコジョーズ含む】のモード熱効率 78.2% 以上のもの ☐ 電気ヒートポンプ給湯機【エコキュート】 ☐ 設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) 備考 (メーカー名)●●●社製、(型番)000000
照明設備 (非居室の仕様) 右記のいずれかを選択	☒ 非居室の全ての照明に、LED 又は 蛍光灯 を設置している ☐ 設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない) 備考 非居室の照明設備は全てLEDを使用

仕様表 木造戸建て住宅(仕様基準) 建築物省エネ法第10条に基づく省エネ基準適合義務に関する事項

基本情報

申請する建築士名	省エネ 太郎	記入日	2025年 4月 2日	会社名	●●●●工務店
事務所登録	〇〇建築士事務所 △△県知事登録 ▲▲▲▲▲号	建築士番号	〇〇建築士 ▼▼▼▼▼号	物件名	●●●●邸新築工事
地域の区分	6地域	建設地	東京都 東京23区		

外皮基準:断熱仕様

部位		断熱工法	断熱材		熱抵抗[㎡・K/W]		備考
			種類	厚さ[mm]	設計値	基準値	
屋根		－	－	－	－	－	該当部位なし
天井		軸組充填	－	－	4.0	4.0	●●●●断熱材(λ0.038)155mm、参考資料:●●カタログ
壁		軸組充填	グラスウール断熱材 高性能品HG16-38	90	2.3	2.2	－
床	外気に接する部分	－	－	－	－	－	該当部位なし
	その他の部分	軸組充填	押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	65	2.3	2.2	－
土間床等の 外周部分の 基礎壁	外気に接する部分		押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	50	1.7	1.7	－
	その他の部分		押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	50	1.7	0.5	－

外皮基準:窓

部位・地域・窓の設置場所			建具の仕様	ガラスの仕様	中空層の仕様	日射取得 /日射遮蔽	熱貫流率[W/(m ² ・K)]		日射熱取得率[-]		備考	
							設計値	基準値	設計値	基準値		
窓	1～4 地域		—	—	—		—	—			—	
	5～8 地域	有効なひさし、軒等がある所に設置する窓	—	—	—		1.9	4.7			製品名●●●、JIS Q ●●●●●-●、に基づく自己適合宣言書(附属書)	
		有効なひさし、軒等がない所に設置する窓	熱貫流率Uが最大	樹脂又は木と金属の複合材料製建具	二層複層ガラス Low E	ガスの封入されていない9 mm以上	日射遮蔽型	2.9	4.7	0.32	0.59	—
			日射熱取得率η _d が最大	樹脂又は木と金属の複合材料製建具	二層複層ガラス Low E	ガスの封入されていない9 mm以上	日射取得型	2.9	4.7	0.51	0.59	—

外皮基準:ドア

部位	枠の仕様	戸の仕様	ガラスの仕様・中空層の仕様	熱貫流率[W/(㎡・K)]		備考
				設計値	基準値	
ドア	－	－	－	2.9	4.7	製品名●●●、JIS Q ●●●●●-●、に基づく自己適合宣言書(附属書)

一次エネルギー消費量基準:設備仕様

設備の種類	設備機器の仕様				備考
暖房設備	暖房方式	居室のみを暖房	設備仕様	【主たる居室】ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が(い) 又は(ろ) のもの 【その他の居室】暖房設備機器または放熱器を設置しない(入居者設置など完了検査時点で設置が行われない)	【主たる居室】(メーカー名)●●●社製、(型番)000000 【その他の居室】入居後設置
冷房設備	冷房方式	居室のみを冷房	設備仕様	【主たる居室】ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が(い) 又は(ろ) のもの 【その他の居室】冷房設備機器を設置しない	【主たる居室】(メーカー名)●●●社製、(型番)000000 【その他の居室】入居後設置
換気設備	換気方式等	壁付け式第二種 又は 第三種換気設備のもの			(メーカー名)●●●社製、(型番)000000
給湯設備	機器の種類、効率	ガス給湯機【エコジョーズ含む】のモード熱効率 78.2% 以上のもの			(メーカー名)●●●社製、(型番)000000
照明設備	照明設備の種類	非居室の全ての照明に、LED 又は 蛍光灯 を設置している			非居室の照明設備は全てLEDを使用